

南日本新聞に掲載されました！

【令和5年1月5日(木)付】

正月 無病息災、自然の恵み祈る



晴踊石の狩人役を弓矢で狙うイノシシを作った元元さん
＝3日、錦江町城元

稲作や狩り再現 錦江柴祭り

錦江町の山あいの神社事。自然の恵みと地域ので2、3の両日、伝統の繁栄を祈願した。柴祭りがあった。山の神に見立てたサカキの枝、2日に立神神社で田打ち、3日は旗山神社周辺(柴)を迎えて、稲作やで山の幸の恵みを願う狩りの所作をする正月行り初め、高穂神社で海と

川の幸の豊漁を祈る神事を執り行った。

狩り初めでは、前迫芳文宮司(64)が半紙に描いた餅盗つ人を小枝で突き刺して懲らしめた。この後、地元池田小学校の石踊元校長(59)と鹿屋市の消防職員大村陽さん(37)が、わら製のイノシシを弓矢で射止め火であぶった。「トーン」と叫んでシシ肉に見立てた団子を口にした。

石踊校長は「学校で子どもたちが神舞を習っている縁で引き受けた。緊張したが貴重な体験ができてよかった」と語った。

柴祭りは2020年、文化庁の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択されており、前迫さんは「地域と連携し、さらに盛り上げてきたい」と話した。

(永井貴士)